

1 単元名 ゆめをえがいて、友だちにつたわるように話そう

学習材名 「あったらいいな、こんなもの」(光村図書2年下)

2 単元について

(1) 学習者について

児童は、2学年「ともさんはどこかな」において、必要な事柄を選び、声の大きさや速さに注意して、はっきりと話すことを、「大すきなもの、教えたい」において、伝えたいことについて、必要な材料を集め、話す順序を考え、丁寧な言葉遣いで話すことを学習している。

児童は、話すことを考えたり、丁寧な言葉で話そうとしたりする意志をもっている一方、順序を考えたり構成に意識を向けることについては経験が十分とは言えず、また、実際に聞き手に伝わるように声の大きさや速さなどの話し方を調整することについても、できているとは言い難い部分がある。

児童は、日常の朝の会や帰りの会でスピーチや連絡などの全体に向けて話す機会をもち、全員がその役割を果たしているが、そこに向上心をもたせ、改善を図っていくことは未だ課題の一つである。

(2) 学習材について

本単元では、「夢の道具について、組み立てを考えて伝わるように友達に話す」言語活動を通して、話題と話す内容を決め、相手に伝わるように話す内容を順序立てて構成し声の大きさや速さなどを工夫する資質・能力を育てていく。伝えたいという思いをもって話す内容を検討した上で、互いの考えていることを聞き合い、また聴き合うことにより、互いの想像したものやことを理解し、思いを伝え合う良さや面白さを味わった実感をもてるような学びを目指したい。

学習材「あったらいいな、こんなもの」は、冒頭『ドラえもん』の挿絵に象徴されるように、児童が「あったらいいな」と思う何らかの道具を友達に紹介する、という学習材である。『ドラえもん』は児童にとって親しみのあるキャラクターであり、物語中に多数登場する「ひみつ道具」を想起することで、児童は比較的スムーズに単元の学習に入っていけるであろう。「夢を語る」という舞台を準備することで、児童の選材やイメージの広がりが豊かになることを期待したい。

本単元で身につける資質・能力は、話すこと・聞くことの領域にとどまらず、書くことをはじめとした思考のアウトプットの際に他者へ効果的に伝えるという、広範な場面で生かされることが期待されるものである。

本単元は第2学年の「話すこと・聞くこと」についてまとめとして扱うことになる単元であるので、既習を踏まえた学びを意識しながら、一方で今後各学年各領域において繰り返しと積み重ねで身に付けていくことも念頭に、単元のねらいに近づいていきたい。

「夢」が曖昧であったため、「道具」と明確にした

(3) 指導に当たって

第1次では「つかむ」段階として、「こんなものがあるといいな」という、語りたい「夢の道具」を想像する。想像にあたっては、『ドラえもん』のひみつ道具をはじめとして、幾つかの例を挙げ、「未来」の「夢の道具」に具体性を与える。教室内に夢が溢れることの楽しさや喜びを想像させ、互いに話したり聞いたりすることの目的化への礎とする。互いに伝え合うことには、自分一人で想像する以上の楽しみがあることを共通理解し、課題設定を行う。発表会を単元の最後に行うことで単元のねらいと結び付け、学習計画を立てる。

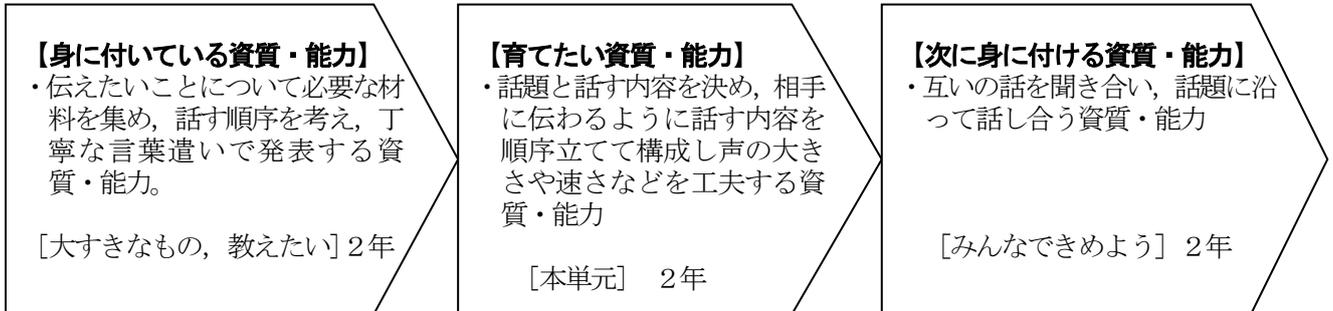
第2次では「きく・あらわす」段階として、夢の道具の具体化を行う。話す内容を組み立てるにあたり、他者との対話を通して内容を膨らませていく。初めに考えた内容に対して、客観的な疑問や意見を受け取ることで内容がより具体的になるように、という目的をはっきりさせた上で意見交流を行いたい。具体的であればあるほど伝わるように話しやすいという価値付けを行い、対話に対する主体的な意識をもたせることで学習効果を高め、深い学びへと向かうようにする。

第3次では、「いかす」段階として、「夢の道具の発表会」を行う。学習の成果が表れていることを自覚できるように、大きく視点を与えた上で他者評価及び自己評価を行い、話すことや聞くことについての学びを自覚させたい。

3 単元の指導目標と評価規準

	指導目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○自分の「夢の道具」を想像することに関心をもち、具体的に想像しようとするができる。	・未来の「夢の道具」に関心をもち、想像しようとしている。
話す・聞く力	◎自分が想像し、具体的に考えた「夢の道具」について、話す事柄を順序立てて説明することができる。 ○丁寧な言葉遣いで話すことができる。 ○相手が聞きやすいように声の大きさや話す速さに気を付けて、話すことができる。 ○友達の話に興味をもち、話の中心を落とさずに聞くことができる。	・はじめ・中・おわりの構成に合わせ、理由や想像した具体を順序立てて話している。【(1)イ】 ・敬語を適切に使用して話している。【(1)イ】 ・聞き手のことを考え、全員に届く声の大きさで、ゆっくりと話している【(1)ウ】 ・友達がどんな夢の道具を描いているかに興味をもち、話の中心をとらえて感想をもったり質問したりしている。【(1)エ】
言語についての 知識・理解・技能	○「夢の道具」やその内容を伝えるための言葉の役割に気付いている。	・自分の考えを伝えるためにふさわしい言葉を考えている。【(1)イ(ア)】

4 本単元に係る資質・能力の系統性



5 学習指導計画 (全13時間)

指導過程	主な学習活動	【評価基準】 (評価方法)
<p>第1次 例示を基に「夢の道具」について考え、学習のねらいを知り見通しをもつ。 (1時間)</p>	<p>①前単元「大すきなもの、教えたい」の学習を振り返り、付けた力と不十分な力を確認する。「こんなものがあるといいな」について例示を基に考え、話したいことを決める。本単元のねらいを知り、学習計画を立てる。</p>	<p>【関】 ・「夢の道具」に関心をもち、ものや事柄について想像を広げ、伝えたいことについて考えている。 (観察・発言・ノート)</p>
<p>第2次 伝えたいことを考え、対話しながら話す内容を組み立てる。 (9時間)</p>	<p>②③自分の描いた「夢の道具」についての絵を描き、その説明について考える。 ④ 伝えたい内容について考えたことを見直し、説明する内容を詳しくするためにどうすればよいか考える。 ⑤ 友達と尋ね合って、伝えたい内容を詳しく考える。(本時2)</p>	<p>【話・聞】 ・「夢の道具」をイメージし、具体的にしようとしている (発言・ノート) ・話す事柄を詳しくしようと考えている。 (発言・ノート) ・友達に尋ねられた内容を基に、伝えたいことをより具体化して</p>

前単元の振り返りは効果的であったが、明記されていなかったので計画に挿入

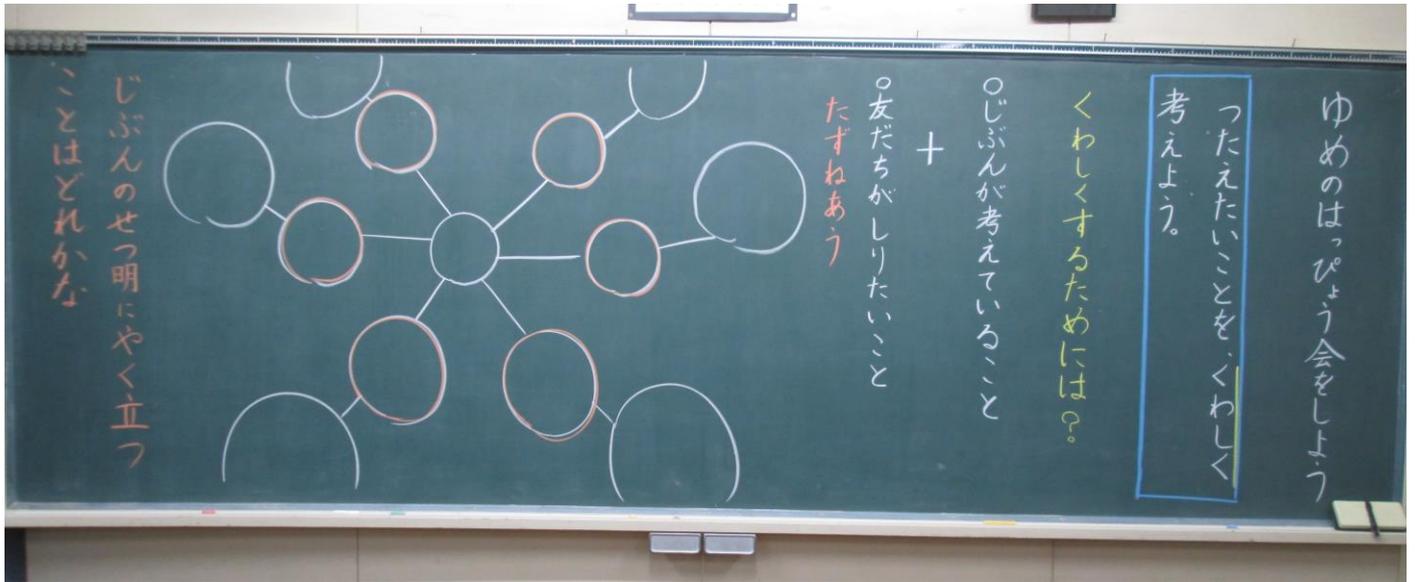
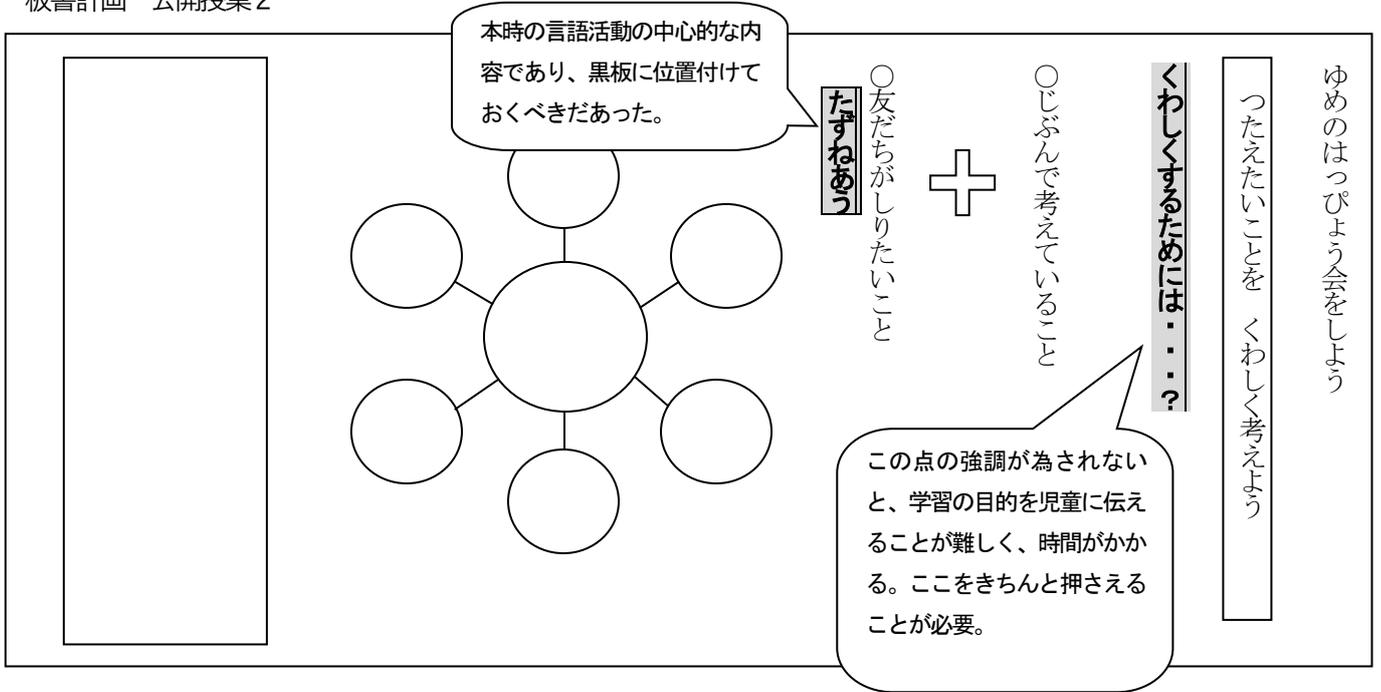
	<p>⑥ 考えたことを整理して、「中」に書く内容を選んで話すことを構成し、メモを作る。</p> <p>⑦ 発表の仕方について考える。</p> <p>⑧⑨発表の仕方を基に、メモを見直し発表の練習をする。(本時1)</p>	<p>いる。</p> <p>(発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す内容を選んで、順序立てて計画している。 <p>(発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わりやすい声の大きさや話す速さについて考えている。(発言・ノート) ・発表の組み立てを考え、発表の準備をしている。 <p>(ノート・練習)</p> <p>【言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えるための言葉を吟味している。(ノート・練習)
<p>第3次 発表会を行い、学習を振り返る。 (3時間)</p>	<p>⑩⑪発表会を行い、相互に質問をしたり感想を交流したりする。</p> <p>⑫学習を振り返り、単元のまとめをする。</p>	<p>【話・聞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ・中・おわり」の構成で伝えたいことを丁寧に話している。 ・声の大きさや話す速さに気を付けて、発表している。 <p>(ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって友達の話聞き、質問や感想をもっている。(ノート・発言)

6 本時の指導 (5/13) 公開授業2

(1) 目標 自分の考えた「**夢の道具**」の具体について、かかわりを通して広げたり詳しくしたりできる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点	◇評価 ・準備物
つかむ	1 学習課題をもつ。 (1) 前時までの学習を振り返る。 (2) 本時の課題を確認する。	○話題の(再)決定	つかむ ・説明として話したい内容が十分でないことを再確認し、内容を増やしていくことの必要感をもたせる。 ・ 友達と尋ねあうことのよさを既習から想起させる。	本時、十分ではなく、時間がかかった。授業者が意識して行う必要があり、挿入
	つたえたいことを くわしく考えよう			
きく・あらわす	2 学習課題を解決する。 (1) 課題の解決方法を確認する。 (2) 自分が一人で考えた、伝えたい内容を確認する。 (3) 互いの考えたことを伝え合い、それぞれについて質問を集める。	○相手の考えに関心を持ち、知りたいことを問うこと ○伝え合うために必要な事柄を集めること	きく・あらわす ・自分の考えたことに対してどんなことを知りたいか、友達の質問から伝えるべき内容を拡大していくことを児童の言葉から確かめるようにする。 きく・あらわす ・自分が描いた絵を基に、友達に説明する。絵と説明から、疑問に思ったことや知りたいことを問う。	・自分の描いた絵 ・花火チャート (自作)
	(4) 問われた内容を全体で交流し、共有して、再度自分の考えの説明に役立たないか考える。	○伝え合うために必要な事柄を集めること	きく・あらわす ・質問されたことを、花火チャートに書き込む。すぐに答えられるものは答え、考える必要のあるものは花火チャートに質問を残しておく。互いの考え方を意識して共感的に「聴き」、互いの考えの深化のために「訊く」ことを求めたい。 ・花火チャートの2段目を共有することをどの児童も理解しているように留意する。	◇友達の問いを基に自分の「 夢の道具 」を具体化し、言語化している。(観察・発言・チャート)
	3 学習の振り返りをする。 (1) 学習を振り返り、感想を書く。	○かかわりあうことが学びに有意であることをとらえること	いかす ・かかわりの価値に意識が向くように振り返りの視点をもたせる。	
	(2) 次時以降の学習を確かめる。			



8 本時の指導 (9/13) 公開授業1

(1) 目標 聞いている人に伝わるように話し方を考えて発表の練習をすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点	◇評価・準備物
つかむ	1 学習課題をもつ (1) 本時の課題を確認する		つかむ ・自分の作ったメモと前時までの学習を基に、本時の学習内容と自分の考えている話し方の工夫を確認する。本時の学習の目的を明確にする。 ・次時の発表会へ向けての練習であることを確認し意欲付けを図る。	・学習計画 ・メモ
グループで、はっぴょう会のれんしゅうをしよう。				
きく・あらわす	2 学習課題を解決する (1) 前時までに学習した発表するときに気を付けるポイントを確認する (2) (1) に沿って一人で練習する (3) グループでの練習の仕方を知る 【練習の流れ】 ① グループで発表を聞き合う ② チェック用紙に記入する ③ 気づいたこと、いいところを伝え合う	○声の大きさ ○話す速さ ○顔の向き ○姿勢 ○丁寧な言葉 ○観点に沿って話し手が知らせたい事を聞くこと、話すこと	・教師が事前に準備した映像を流し、発表するときどのようなことに気を付ければよいかを、具体的にイメージさせる。 ・気を付けることが書かれた、チェック用紙を準備し、話を聞いて記入する。 きく・あらわす ・話し手の観点に沿って聞き、気が付いたことを伝えるようにする。 ・話し方のポイントを意識して話したり、聞いていたりしたグループを紹介し、よかったところに気付くことができるようにする。 ・自分の改善点を踏まえ、練習をする。	・電子黒板 ・パソコン ・短冊カード ・チェック用紙
いかす	(4) グループごとに「話し方」, 「聞き方」に注意しながら、練習する (5) 一人で練習する 3 学習の振り返りをする (1) 学習を振り返る (2) 次時以降の学習を確かめる		いかす ・自分がどんなことに気を付けて話す練習をしたか、友達の発表を聞いてどこがよいと感じたかの2点を振り返りの観点とする。 ・自分がよくなったところはどこかを考えさせたい。	◇聞き手に紹介したい事柄が伝わるよう、姿勢や口形、声の大きさや速さに注意してはっきりした発音で話している。(イ) (観察・振り返り)

ゆめのはっぴよう会をしよう

④ グループで、はっぴよう会のれんしゅうをしよう。

○話すときに気をつけること

- ・声の大きさ
- ・話すはやさ
- ・顔のむき
- ・しせい
- ・ていねいなことば

○すすめかた

- ①グループで聞き合おう ←
- ②チェックよう紙に書く ←
- ③気づいたこと、いいところをつたえ合おう